

第3回徳島県公立高等学校の在り方検討会議の概要について

1 日 時 令和7年12月25日（木）午前10時から正午まで

2 場 所 徳島県庁 10階 大会議室（徳島市万代町1丁目1番地）

3 出席者

- (1) 委員 16名中15名出席（欠席1名）
- (2) 県 教育次長、教育創生課長 ほか

4 議 題

- (1) 抛点校のイメージについて
- (2) 国の動向について

5 意見交換における主な発言概要

（1）抛点校のイメージについて

○抛点校に限定することなく、県内の全高校を対象として、実験は対面、理論はオンラインといった効率性と教育効果を考慮したオンラインの活用や反転授業の導入など、教育方法の在り方について検討する必要がある。

○抛点校と小規模校をセットで捉え、生徒が望む学び方に応じた選択肢を確保しつつ、探究活動や部活動の共同実施などを通じて、双方の規模の利点を活かした多様な学びを実現する必要がある。

○抛点校以外の小規模校にも独自の特色を持たせるとともに、小学校段階からのSTEAM教育の流れを確実に受け止める高校教育の在り方を検討すべきである。

○抛点校をはじめとした今後の高校の在り方については、より踏み込んだ具体的な検討を進めるべきである。例えば、実践的な学びの場の確保や施設の利活用など、地域の実情に即したアイデアを出し合う必要がある。

○抛点校については、まずは設置場所を優先的に決定すべきであり、その教育内容については、普通科と専門学科を併置する場合のカリキュラム上の課題など、検討を継続する必要がある。

○この度の国の補正予算において示された「パイロット校」との違いを明確にし、抛点校がいかなる課題解決を目指すのか、その狙いをシャープにする必要がある。

(2) 国の動向について

- AIやDXといった時流を追うよりも、教育の不易を見極める必要がある。社会が激変する今こそ、産業競争力の源泉となり、自ら考え課題を発見する力の土台となる基礎学力の向上を、高校教育全体の共通テーマに据えるべきである。
- 成績上位層のみならず、多様な課題を抱える生徒を含め、誰一人取り残さず、全員が輝ける学びの場を作る視点での議論が必要である。
- 国の理系教育へのシフトに伴う数学・理科の教員確保に早急に対応し、全国的な人材獲得競争に備えるとともに、小中学校からの理数教育を充実させるべきである。
- 国の「高校教育改革に関する基本方針」に基づく支援については、学区撤廃への対応や教育環境の公平性担保の観点から、小規模化や老朽化が顕著な県西部の教育環境の整備、及び専門高校の魅力化に向けて戦略的に活用すべきである。

(3) その他

- 早期の適切な進路選択のため、合同説明会の開催や動画の活用等による情報発信の強化を図るとともに、小中高が密接に連携したキャリア教育を充実させる必要がある。
- 進路選択においては、行きたい学校に行くという理想だけでなく、相応の学力が不可欠であるという現実を生徒・保護者が理解できるよう指導すべきである。
- 地理的制約に縛られず、寮を整備してでも県内外から生徒が集まる特色ある「一番校」をつくるのか、本気で検討を進める必要がある。
- 全国募集の安定化には、寮などの施設整備に加え、ハウスマスターやコーディネータ一等の人的基盤の構築が不可欠であり、市町村の参画と連携を深めるべきである。